

1-1-1 第4回三沢市地域公共交通会議

三沢市地域公共交通会議 会議録						
会議名称	令和4年度第4回三沢市地域公共交通会議					
開催日時	令和5年3月28日(火) 14時00分					
場 所	三沢市役所 4階 大会議室					
出席者	会 長	小渡 章好	監 事	山内 修一	監 事	沼田 巖
	委 員	橘 イト	委 員	米沢 美幸	委 員	米田 均
	委 員	池田 守	代理委員	蛭名 和也	委 員	山村 雅文
	委 員	向中野 貢	委 員	山崎 徹	委 員	吉村 聖毅
	代理委員	堀 憲明	委 員	松橋 一典	オブザーバー	田中 俊行
	事務局	三沢市：坂岡参事兼課長、和田課長補佐、中村係長、三浦主事 株式会社ケー・シー・エス：吉富、増子				
会議次第	1 開 会 2 会 長 挨拶 3 議 事 (1) 新たな交通サービス（検討内容の共有／住民懇談会等の報告） (2) 次年度のスケジュールについて 4 閉 会					
会議の経過及び審議結果（概要）						
1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 新たな交通サービス（検討内容の共有／住民懇談会等の報告）について ・内容について事務局より説明。 <主な意見> (小渡会長) ・実際に住民懇談会に参加した沼田委員からお話しいただきたい。 (沼田委員) ・説明のとおりだが、地域の高齢化が進んでおり、参加したメンバーは今回の検討内容に対して自分事として考えて議論できたと思う。 ・自分の親の送迎が難しい中で『デマンドやタクシー補助が整備されることは良いことだ』という話になった。						

- ・北部地域の住民は普段からバスを使う意識がなく、自宅からバス停まで遠く、中々歩いて向かうのが難しい状況が改善されるという提案の中でも、さらに良いものを求める声もあった。
- ・なお、本取り組みが北部と東部だけで行われた際に、中心部の住民からの不公平感はいずれ生じると思うので、行政がしっかりと説明していく必要がある。
- ・しかしながら、どちらの案が採用されても利便性が上がるという期待感是非常にあった。

(小渡会長)

- ・おいらバスを例に説明したようだが、地域住民のおいらバスの認知度はどの程度か。
- ・また、どのようにして知ったのだろうか。

(沼田委員)

- ・おいらバスに対する地域の認知度はかなり高く、同様の移動手段を用いて買物・通院・役場手続きなどの用事を済ませたいようで、積極的に意見が出た。
- ・知ったきっかけは、ニュースや実際に走っている車両を見たのだと思う。
- ・運転免許証の返納が迫る中で、誰かに送ってもらえるかどうかの不安があり『ひとまず始めてみてはどうか』という意見もあった。

(堀代理委員)

- ・福祉課では、本年度に障がい者向けの計画を検討するために、アンケート調査を実施し『日常的な外出時の困りごと』などを調査した。
- ・その中で『外出の際のバスの本数が少なく、利用しづらい』との声が多かった。
- ・高齢者だけでなく、障がいを持った方も移動に困っており、今後の詳細な検討の際には、障がい者に対しても配慮していただきたい。

(米田委員)

- ・これだけ具体的なところまで決まっているのであれば、まず実践してみるのが良いかと思う。
- ・三沢市の場合は南北に広がる特色があるので、北部と東部で違いをつけてはどうか。

(池田委員)

- ・それぞれのニーズに合わせた対応が必要になる。
- ・また、デマンドの運行が開始された後、すぐに利用できる方もいればそうでない方もいると思うので、まずは簡単な内容での運行、しっかりとした周知をお願いしたい。

(小渡会長)

- ・これまで、バスに主眼を置いた検討だったため、タクシー事業者の皆様にもどかしい思いをさせていたと思う。今回、ようやく公共交通としての役割を担う機会が来たと思うがどうか。

(向中野委員)

- ・タクシー補助はすぐにでも取り組めるが、過去に三沢空港の連絡タクシーを運行した経験から、デマンドの受付業務は非常に大変で難しいと思われる。
- ・市立病院が移転し、コミバスの運行が開始されてから『タクシーの運賃が高い』との声が多くなった。実際に距離も伸び、運賃も上がることで市内の利用者の負担になっていると感じる。料金が4, 5千円になる北浜方面では使われる方はほとんどいない。

(事務局)

- ・オペレーターに関する不安は、これまでの交通事業者ヒアリングの中でもご意見として頂戴していた。次年度は意見交換を踏まえながら、予約管理が難しい場合は、運行と切り離していく必要もあると考えている。

(小渡会長)

- ・まず取り組める範囲で運行を開始し、運行する中で地域住民の方にも良い運行を考えていただき、運行内容に慣れていただく必要がある。完璧な運行計画を1度に作り上げるのは難しいので、先ほど出た障がい者の視点を踏まえて、まずはやってみてはどうか。

(事務局)

- ・バスの利用者が減少する中で、今と同じような取組を続けていけば、さらに利用者が減ってしまう為、一歩踏み込んだ検討が必要だと思う。最初から完璧な運行計画は難しいかと思うが、まずは取組み、問題のある箇所は見直しながら良いものにしていきたい。

(小渡会長)

- ・他の委員からも意見をお伺いしたい。

(米沢委員)

- ・75歳でも移動支援が必要ない人もいれば、65歳でも必要な人もいて様々だと思う。
- ・PTAとしては子育ての視点も含めて検討いただけるとありがたい。

(橘委員)

- ・まずはやってみないとわからないと思う。

(山内委員)

- ・商工会としては向中野委員の言う通りタクシーチケットはすぐできるかとは思いますが、利用者が支払う料金を思えばデマンドが良いと思う。
- ・ただし、運行を担う交通事業者さんの状況が重要なので、事業者さんに負担がかかりすぎることがないように十分な協議を行っていただきたい。

(吉村委員)

- ・事業者の受け皿が整わないといけないため十分に協議が必要だと思う。

(松橋委員)

- ・デマンドは中心部に来的ためのものになるが、いろいろと試してみることも大事だと思う。

(山崎委員)

- ・チケット助成は不公平感や譲渡などのデメリット感があり、これだけで地域交通を維持できるのかどうかを考えると、デマンドの方で検討していただければと思う。

(山村委員)

- ・労働組合としての立場からすると、デマンドを運行するために多くのことを考慮していただいていると思う。事業者の皆さんが対応する準備が整っているのであれば運行してみて、運行本数が多ければ便数を減らすなどの調整ができると思う。

(蛭名代理委員)

- ・バスは時間や経路に縛られる為、別の手段を用いて移動しやすくなることで、人が中心部に訪れる方向に進むと感じた。
- ・デマンドが新たに運行する時間帯については、既存のバス運行に割いている車両やドライバー等を別の場所や時間帯に置き換えて活用できると思う。

(事務局)

- ・バスからデマンドに切り替えることで廃止となる可能性があるバス停は、他のバスで対応するなど別な方法で移動手段も検討していく。

(堀代理委員)

- ・10年ほど前に事務局として公共交通に関わっていたが、当時はタクシーの活用に至っておらず、今回の協議の中でタクシーの活用が具体になったことは感慨深いものがある。
- ・地域の皆さんの移動手段として、やる価値があると思うので、より多くの方が利用できるものであるとともに、地域の皆さんとの協働でより良いものに育てていただきたい。

(田中オブザーバー)

- ・利用者の方に満足していただく必要がある為、ニーズをしっかりと把握していただきたい。
- ・運転免許証を自主返納する方が年々増えており、そういった移動手段を持たない方が使えるようなものにしていただきたい。

(小渡会長)

- ・本日の協議会で方向性を決めるとのことだが、デマンドを具体にする方向でよろしいか。

(一同)

- ・異議なし

(事務局)

- ・年齢、地域、障害など様々な状況の中で不公平感の無い施策として、朝夕のバスを残しつつ日中にデマンドを検討していきたい。

(小渡会長)

- ・まずは運行開始に向けてトライしつつも、三沢市とおいらせ町では状況が異なる場合もあるので、違いを考慮しながら多方面で検討いただきたい。

(堀代理委員)

- ・一点、質問をさせていただきたい。『高齢者いきいきパス』は今後どうなるのか。

(事務局)

- ・『高齢者いきいきパス』は乗れば乗るほど料金がお得になるパスとして現在は発行しているが、今後はバスの運行便数も減るので、調整は必要であると考えている。

(2) 次年度のスケジュールについて

- ・内容について事務局より説明。

(小渡会長)

- ・何か意見・質問等はあるか。

(一同)

- ・特になし

4 閉会